

YRS
ユアーズ

横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより



横浜ウェーブ

第193号



オンラインでの手話通訳者派遣について

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンラインで会議の通訳依頼件数が増加傾向にあります。横浜ラポールとしては、手話通訳者が自宅から Zoom などを通じて行う手話通訳を試験的に実施してきました。試行中の状況や今後の利用者のニーズを踏まえ、本年4月に改定された手話通訳者派遣事業実施要綱が、9月施行となったことに伴い、オンラインによる手話通訳者派遣を本格始動しました。

実際に行ってみて、依頼(主催)者へお願いすることの整理の必要性や通訳中の通訳者交代のタイミングなどオンラインならではの課題もみえてきました。

こうした課題を改善するべく、依頼(主催)者と通訳者の両者に向けてのマニュアルやルールを作成し、通訳者に対してオンライン手話通訳の方法についての研修も実施しました。今後も依頼者が安心して利用でき、通訳者も円滑に通訳ができるよう環境整備に努めてまいります。

また、「J-TALK」((株)アステムの遠隔手話通訳アプリ)のさらなる利用促進も図ってまいります。

要約筆記に関しては、要約筆記者が現場に集合し、Zoomの画面にIPTalkを入れる方法での遠隔通訳はすでに実施していますが、仮想HUBを使用したオンライン通訳は現在、検討段階です。

遠隔通訳はまだ課題が多くありますが、みなさんのご意見を丁寧に聞き、より良い通訳者派遣事業の運営に努めてまいります。

手話通訳者・要約筆記者派遣要綱の改訂について

本年4月1日付けで横浜市手話通訳者、横浜市登録手話通訳者、横浜市登録要約筆記者の派遣要綱が改訂されましたが、事務手続き上の都合から、この9月に施行となりました。改訂内容の概要は以下の通りです。

- ①派遣領域の撤廃:これまで登録手話通訳者・要約筆記者派遣要綱の「派遣内容」は、AとBの2つの領域に分けられ、通訳単価にも差ありましたが、その領域が撤廃され、A領域の単価に統一されました。
- ②登録手話通訳者と登録要約筆記者の報酬の差異の解消:これまで両者の派遣報酬に差ありましたが、手話通訳者の単価に統一されました。
- ③報酬額ベースアップ
- ④登録手話、要約筆記者の研修参加時の交通費実費支給
- ⑤「オンライン等による手話通訳の派遣について」の追記

オンライン等の通訳(Zoom ミーティングの通訳等)の際、通訳者所有の機器を使用する場合の「機器使用料」等の支給が位置づけられました。

研修事業

非常勤手話通訳者・専門研修

「対人援助技術（通訳者の倫理）」

7月24日(土)、立命館大学衣笠総合研究機構生存学研究センター客室研究員の飯田奈美子氏を講師にお迎えし、オンラインによる専門研修を開催し、講演とケーススタディを行いました。

コミュニティ通訳においては、文化の差異や医者と患者などの立場の差において、対人援助技術を用いた支援が必要になる場面があります。前半の講演では、その支援を行うために、客観的・論理的基準を用いて判断していくことが通訳者に求められると理解をしました。ケーススタディでは、事例を手話通訳士倫理綱領の条文に当てはめて、「介入する・しない」の基準などを明確にしていく作業をおこないました。この作業では、これまでの現場の経験を振り返りながら討議を深めることができました。

通訳現場では、通訳者が通訳を行う中で、支援の必要性の判断を即時に求められます。今回は、その考え方・あり方について学ぶことができ、実りのある研修となりました。



手話通訳者・全体研修

「手話ってどんな言語？手話の特性とその発達」

8月28日(土)、慶應義塾大学経済学部教授 松岡和美氏をお招きし、標記テーマでの研修をオンラインのみで実施し、(会場参加は感染拡大中のため中止)84人が出席しました。

講演では「ろう者が第一言語とする日本手話、手指つき日本語(日本語対応手話)、そして2つが混じりあった混成手話、の3つがはっきり区別されず、手話と呼ばれている。3つに優劣はなく、それぞれにメリットがある。ろう・難聴者の言語やコミュニケーション方法を本当の意味で尊重するためには、対象者個々の違いをよく理解し、通訳者は、現場の状況と対象者のニーズを捉えておく必要がある」とお話をいただきました。

講師の著書として「日本手話で学ぶ手話言語学の基礎」がありますが、「わくわく！納得！手話トーク」も出版されました。

手話通訳者・要約筆記者 合同研修

「障害のある人の意思決定支援について」

9月11日(土)、(一社)全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事兼事務局長の又村あおい氏をお招きし、標記テーマでオンライン研修を行い、109人が出席しました。

講師は知的障害のある方やその家族の支援をご専門とされていますが、今回は手話通訳者・要約筆記者のために「意思疎通支援」や「意思決定支援」場面での注意点など、具体例をまじえてお話しいただきました。その中でも、「意思決定支援に必要となるのは、対象者が理解できる形での情報と見通しの提供だが、提供する情報や見通しにも、支援者の価値観と成育歴が混入する点には十分留意(無意識のフィルターをかけるため)が必要」という視点は、常に気を付けなければならないことだと感じました。

意思疎通支援者として派遣される通訳者が、対象者の自己決定の場面で、何に気を付けなければいけないかを改めて考えるきっかけとなり、気づきの多い研修となりました。

～職員の異動がありました～

【退職者】 10月31日付 館野 優子(たての ゆうこ) 聴覚障害支援員

相談事業

関東ろうあ者相談員連絡会

8月17日(火)、第2回関東ろうあ者相談員連絡会がオンラインで開催されました。5月の総会に続いて聴覚障害者情報文化センターがホストとなり、22人の会員が参加し、当施設から2人が参加しました。九州産業大学人間科学部臨床心理学科教授(講師)に、「相談員としての傾聴技術について」とのテーマで講演とグループワークを行いました。研修は当施設の相談業務を行う上で大変参考になりました。

今後の連絡会は紙面にて報告します。

派遣事業

全要研ウェビナー「アフターコロナを見据えて」

9月4日(土)、特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会主催のウェビナー(オンラインセミナー)に参加しました。遠隔要約筆記の方法について具体的な提案がありました。

さまざまな分野でオンライン化が進む昨今、聴覚障害者が不利益を被ることなく参加する権利が保障されるよう、情報保障は常に社会のニーズに応じて変化していく必要があると思います。当施設でも当事者団体や要約筆記者協会のご協力を得ながら、新しいニーズに応じた要約筆記のあり方を模索しているところです。今回のウェビナーを参考に引き続き遠隔要約筆記の方法について検討して参ります。

普及啓発事業

難聴者サロンの見学

9月26日(日)、オンラインで開催された、神奈川県聴覚障害者福祉センター主催の難聴者サロンを見学しました。

さまざまな年代の方が参加され、家族や職場でのコミュニケーションの悩み、学生時代や就職活動での経験、社会に出て感じた孤立感など、参加者どうし共感しながら話が進みました。時間も忘れるほどあっという間の2時間でした。横浜ラポールでも難聴者の相談をお受けしていますが、共感しあえる場所づくりの必要性を感じています。近況や趣味などの何気ない話も手話や要約筆記を使いながら、仲間どうし気兼ねなく話せる場所があることはとても大切だと感じました。どのように実現できるか、横浜市中途失聴・難聴者協会のみなさんにもご協力いただきながら検討していきたいと思っております。

ろう高齢者の敬老を祝う会



9月26日(日)、(一社)横浜市聴覚障害者協会主催「ろう高齢者の敬老を祝う会」がラポールボックスで開催され、当施設より職員が参加しました。参加者23人が集まり、コロナの感染予防対策をしながら交流を深めました。

昔の旅行や研修会の写真を大きくスクリーンに投影しながら、思い出話に花を咲かせたり、横浜市にまつわるクイズを出して当てたりするゲームをし、参加者は、頭や身体を思う存分使って楽しまれていました。来年も交流会に参加したいと思っています。

映像制作

「目で聴くテレビ」で自主制作番組が放送

10月5日(火)、認定NPO法人 障害者放送通信機構のIP放送「目で聴くテレビ」に、当施設が制作した番組が放送されました。前回2月の放送に続き、中区にある馬車道の歴史や見どころなどを後編として、佐藤順一さん(横浜市聴覚障害者協会会員)が紹介しています。放送をご覧になれなかった方はDVDの貸し出しを行っております。また当施設のライブラリーでもご覧いただけます。みなさん、ぜひ、ご覧ください。





聴覚障害者情報提供施設年末年始の休みについて

	12/28(火)	12/29(水)	12/30(木)	12/31(金)	1/1(土)	1/2(日)	1/3(月)	1/4(火)
職員	○ ラポールは休館	×	×	×	×	×	×	○ ラポールは休館
FAX メール	17:00まで ○	×	×	×	×	×	×	9:00から ○

年末年始の緊急時について

年末年始は多くの医療機関が休診となりますので、各区にある休日急患診療所をご利用ください。

機関名	FAX番号	対応時間	手話通訳
横浜市消防局	119 (横浜市内)	無休/24時間	○ (申請時に通訳が必要と申し出てください。)
神奈川県警察	0120-110221	無休/24時間	○ (申請時に通訳が必要と申し出てください。)
横浜市救急相談センター	242-3808	無休/24時間	× (TEL、FAXの対応のみ)
横浜市コールセンター	664-2828	無休/8時~21時	× (TEL、FAXの対応のみ)

出た！データ！ (9月末までの累計)

■通訳者の派遣・紹介人数

内容	手話通訳	要約筆記	合計	昨年同月
医療・保健	3,229	40	3,269	2,567
司法	11	20	21	14
教育・保育	236	4	240	179
労働・雇用	290	34	309	105
社会生活	1,005	11	1,016	715
自己啓発	61	0	61	32
福祉推進	392	409	780	379
介護保険	1	0	1	
他都市	27	0	27	21
合計	5,252	518	5,770	4,012
昨年同月	3,816	196	4,012	

■聴覚障害者の相談

相談事業	実件数	対応数
医療	173	311
職業	19	39
教育	0	0
住宅	12	26
生活	128	211
福祉	101	210
法律	21	42
聞こえ	3	4
合計	457	843
昨年同月	338	549

■通訳者の現任研修

手話	回数	19	参加人数	604
要約筆記	回数	19	参加人数	339

■映像・字幕制作

自主制作作品数	37
---------	----

情提の動き

9月

- 1 関東ろうあ者相談員連絡会打合せ(オンライン)
- 3 手話通訳者協会との懇談(オンライン)
- 3 自立支援課との打合せ
- 4 全要研遠隔要約筆記関係ウェビナー
- 4 手話課題別研修
- 4 手話養成講師ヒアリング(横聴協)
- 8 特殊検診医との面談(港町診療所)
- 7 手話1年次研修
- 11 手話通訳者全体研修(オンライン)
- 13 要約筆記協会との打合せ(オンライン)
- 13 非常勤手話通訳者会議(オンライン)
- 14 ブラッシュアップ講座講師打合せ(オンライン)
- 17 手話養成講師ヒアリング(横聴協)

- 17 atGPジョブトレ大手町様見学会(オンライン)
- 18 要筆現任研修(オンライン)
- 22 主管課定例会議
- 26 ろう高齢者の敬老を祝う会参加(横聴協)
- 26 県センター難聴者サロン参加(オンライン)
- 27 区役所配置通訳説明会(オンライン)
- 27 衛生委員会
- 28 情提協会ブロック会議(オンライン)
- 29 要筆記1年次研修打合せ(オンライン)

10月

- 1 手話養成運営委員会(横聴協)
- 2 手話養成II講義(横聴協)
- 3 要筆1年次研修
- 5 手話登録試験委員会(横聴協)
- 7~8 定期健康診断
- 8 関東ろうあ者相談員連絡会打合せ(オンライン)

- 8 県地域福祉課との協議(遠隔通訳関係)
- 12 視聴覚機器点検
- 13 聞こえの相談事業打合せ
- 15 聴覚障害者のための健康学習会
- 16 手話通訳者説明会(オンライン)
- 16 手話課題別研修
- 17 要筆現任研修・手書き(オンライン)
- 18 手話専門研修
- 19 手話ブラッシュアップ研修
- 25 衛生委員会
- 27 manaby新横浜駅前事業所
職員研修講師派遣(港北区)
- 27 主管課定例会議
- 30 手話課題研修

横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより《横浜ウェブ》

発行日:令和3年10月29日

発行者:(社福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設

〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752 TEL.045-475-2057 FAX.045-475-2059

ホームページ <http://www.yokohama-rf.jp/rapport/jyoutei/>